

想像を超える「130年」

土方 祥平さん(文3)

コロンビア大学は相馬永胤先生が卒業された大学です。ロースクールを訪問、特別展示を見せていただきました。その中に当時の卒業生名簿があり、しっかりと先生のお名前を確認することができました。この時の驚きは忘れられません。130年以上も前に創設者たちはアメリカで勉学に励んでいたということは想像すらできませんが、彼らの足跡はしっかりと残っていました。

駒井重格先生のラトガース大学では、当時使われていた建物も見学することができました。130年以上も前の建物が自分の目の前に存在している、まさに足

専修大学の創立者である相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格が留学したアメリカの4大学を訪問し、その足跡をたどる学生部の「創立130年記念海外セミナー」は学生18人が参加し3月7日から15日まで行われた。訪ねた大学は▷コロンビア大学(相馬)▷エール大学(田尻、相馬=大学院)▷ハーバード大学(目賀田)▷ラトガース大学(駒井)。参加した学生4人に感想を聞いた。



▲コロンビア大学のロウメモリアルライブラリー前での参加者たち

専修大学の創立者4人が留学

米の4大学で足跡たどる

創立130年記念

海外セミナー

学生のお墓があります。創立者たちの軌跡を描いた小説『蒼翼の獅子たち』には田尻稻次郎先生がここを訪れた描写があります。各墓のかをイメージしました。田尻先生の母校エール大学では、朝河貫一というエール大学で日本人初の教授をしていた方についての話を聞きました。ここには日本の書物もたくさんあるそうです。

ハーバード大学を卒業された目賀田種太郎先生の当時の学業成績を見ることができました。ハーバード大学の卒業生にはセオドア・ルーズベルトや小村寿太郎などの偉人がいます。この人たちが同じくらい目賀田先生も偉大な存在です。

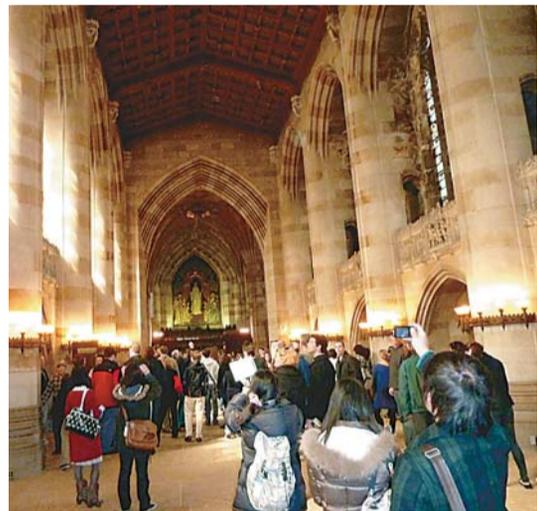
このセミナーでは大学訪問以外にも多くの場所へ行き、歴史について学びました。

「何を学ぶか」を学んだ

宇良 祐美さん(法2)

大学というところは、自分にとってなんなのか。そう感じさせてくれる約1週間のアメリカの旅でした。入学式で書類の中に入っていた一枚の紙。創立130年記念の海外セミナーのお知らせでした。行ったら何かが変わる。そんなちょっと他力本願のような気持ちもあって、海外セミナーに参加することを決めました。

専修大学は明治時代、相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4人によって創立されました。明治時代という日本で大きな改革があった時期に見知らぬ土地でまったく違う言語を話す人々がいる中、そこで暮らしていくこの大変さ。学ぶだけでも、言葉では言い尽くせないほどの過酷な状況だったと思えます。



▲エール大学のスターリングメモリアル・ライブラリー

り、現地の人たちの人柄の良さにも触れたりすることができました。アメリカには、それほど古い歴史はありません。それでもしっかりと歴史を重んじていることがわかります。

ここで学んだことを生かして、残り2年間という大学生活で何ができるかを考え、新たな「蒼翼の獅子」になれるよう励みたいと思います。

この旅での一番の収穫。それはやはり自分自身の考え方を考えることができたことです。「勉学」に対しての考え方が行く前よりも変わった気がします。

アメリカの学生は「何を学ぶか」を常に考えながら勉学に励んでいます。テストだけでなく、サークル活動、そのほかの課外活動においてどういった経験を積んだのか。日本はまだまだ学歴社会ですが、「勉学」ってなんだろうと考えるので迷ってしまうほどです。日本の芸術作品も数多くあります。

結果は後からついてくると思います。4人の創立者たちやほかの留学生をみて、「何を学ぶか」とい

苦勞偲び愛校心持った

佐藤 翔さん(法2)

この海外セミナーは、専修大学の4人の創立者たちが学んだアメリカの4つの大学を訪問したり、ニューヨークやボストンなどの街を観光したりするというものでした。

どの大学も、とにかく広くて、細かいところまでしっかりと整備されています。建物は歴史と伝統を感じさせるものでした。大学内には教会もあり、悩んでいた、落ち込んでいたりしたときに、癒やされる場所として使用することができました。

市内観光の一環で、田尻稻次郎先生ゆかりの教会にも行きました。この日はあいにくの雨でしたが、明治時代に造られた建物はとても厳かでした。

現在のアメリカは日本との関係も深いため、カタコトができました。

海外セミナーを体験したこと、今後の大学生活が今まで以上に有意義なものになると思います。専修大学に対する愛校心を持つことができました。

創立者4人に誇りと感謝

名倉 利治さん(商2)

130年海外セミナーに参加した目的は、アメリカという超大国をこの目で見てみたいという衝動と、前期で専修大学の歴史の授業を履修していたので、創立者4人についてもっと知りたいたいという知的好奇心に駆りたてられたからです。

海外セミナーで得たものは、次の3点です。1つ目は「創立者4人に対して感謝しなければならぬ」、2つ目に「世界の中心地アメリカの強さ」、3つ目は「私という専修人が未来に対して何をすべきかが明確になった」です。

4人が留学した大学を確認したいと思います。どの大学も非常に優秀であるだけでなく、それぞれの大学には、日本の大学にはない個性的な特徴があります。

例えば、ハーバード大学は、アメリカで最も古い歴史を持つ大学。それだけでなく、1530万冊もの蔵書を誇る図書館があります。

エール大学は、2004年の大統領候補者の6人のうち4人を輩出しています。コロンビア大学では、現代を生きた私たちに欠かさないものである「X線写真」や「FM放送」などの技術を誕生させました。

ラトガース大学は、学生が勉学に努めるだけでなく、スポーツ界、特に、ラグビーでは非常に好成績を残しています。

創立者4人は、優秀な大学で学び、知識教養を深め、蓄積していったので、この4人の創立者に感謝するだけでなく、私が通っている大学にこんな素晴らしい創立者がいることを非常に誇りに思います。

私は今回の海外セミナーに参加したことによって、未来に生きていく私たちに求められているものは、国境を無くしていくことだと思えました。地球レベルで起きている問題は山ほどあります。これらの問題を解決していくためには国という単位ではなく、地球単位で考えなければならぬ。だからこそ、私たちに今必要なものは、大きな視野を持つことだと今回の海外セミナーで再確認しました。



▲ラトガース大学のカフェテリアで日本語を学ぶ学生たちと交流

トの英語でも少しは通じたり、相手も「コンニチハ」と話しかけてくれたり、日本食を食べることもできたりして過ごしやすいところだと思えました。しかし創立者たちが留学していたころは、日本との関係はまだ浅く、流ちょうな英語しか通じなかったはずですし、日米間は、今こそ飛行機で12時間くらいですが、明治時代は船で何日もかけて渡航したので、とても苦勞したのだと思います。